

晴れた日には出かけよう！
～まちのミリョクを再発見!!～

6

さしかみ
幸神神社の

シダレアカシデ



幸神神社のシダレアカシデは、大地から緑が湧き出しているような力強さを感じさせます。



参道の入り口に悠然とたたずむシダレアカシデ

『幸神神社のシダレアカシデ』は、昭和 17 年(1942)に国の天然記念物に指定されました。大久野の幸神地区にある幸神神社の参道入り口に悠然とたたずむその姿は根元から屈曲して分かれた大小の枝がらせん状によじれながら垂れていて、全体を見渡すとお椀を伏せたような優雅な樹形をしています。この樹は、自然にこの様な樹形になったのではなく、盆栽のように人の手によって長い年月をかけて今のような姿に仕立てられたのではないかと考えられています。

シダレアカシデは、カバノキ科クマシデ属の落葉高木であるアカシデの変種で、全国的にもとても珍しい樹木です。アカシデ自体は、北海道から九州の低地や丘陵地に自生していて、別名をソロノキといいます。アカシデの名の由来は、新芽が赤く色づくからとも紅葉の赤が美しいからとも言われています。

シダレアカシデは変種のためか、その種から発芽したものはほとんど枝が垂れることがないそうです。しかし今から 40 年ほど前に、地元の熱心な愛好家が種から何本もの苗木を育て、ついに枝が垂れる樹を育てることに

成功しました。その樹から^{よびつき}呼接という方法で増やした株が、近隣の市町村等にも配られたそうです。そうした中の 1 本が、JAあきがわ日の出支店の玄関前の植込みにあります。こちらの木は、栽培された環境や手入れの仕方の違いからか、幸神神社のものとは趣がことなり、幹は比較的真上に伸びて、全体にスラリとした印象を受けます。これ以外にも、町内には何本か植えられている様で、まちを歩くと個人宅の庭先などでシダレアカシデと思しき樹木を見かける事があります。

シダレアカシデは春の芽吹き、夏の緑、秋の紅葉、冬の枝振りなど四季折々に様々な装いを見せてくれます。

幸神神社では毎年 3 月末の土日に例祭が執り行われます。お祭りでは神輿や山車が繰り出し、平成 10 年(1998)に町の無形民俗文化財(民俗芸能)に指定された『^{じゅうまつりゆう}重松流祭り囃子』が奏でられます。



幸神神社の祭礼

アクセス

幸神神社のシダレアカシデへは「大久野中学校」バス停下車、徒歩 5 分です。



日の出WALK(観光マップ)【1-7】

